

その一環として、「川勝平太サポーターズクラブ 3776」と銘打ち、中国との経済交流団産業交流会を行う企画や民間交流団を募集、中国浙江省との友好交流のため富士山静岡空港を利用し、開催中の上海万博に合わせて、静岡県から中国浙江省へ、富士山の標高にちなんだ3,776人の訪問を実現しようと計画されています。

また知事と、障害者福祉について、障害者の農業支援等お話しさせていただくことが出来、私が考えている事に共感して下さったことは、これからの活動に対する自信となりました。今後とも素晴らしいリーダーシップやアイデアを果敢に発揮され、県民のために更にご尽力頂きたいと存じます。同時に我々も、行政に頼る事無く努力し、更なる福祉サービスの充実や日本型障害者福祉を考えていきたいと思っております。

代表取締役社長 林 博道

発行：富士山ドリームビレッジ

(障がい者就労継続支援A型・就労移行支援事業所)

★こちらに移転しています

〒418-0018 富士宮市粟倉南町 147-1
TEL: 0544-25-1808 FAX: 0544-66-6052

★カジュアルレストラン「ラビットムーン」

〒435-0052 浜松市東区天王町字諏訪 1981-3
浜松イオン市野ショッピングセンター
TEL/FAX: 053-467-2125

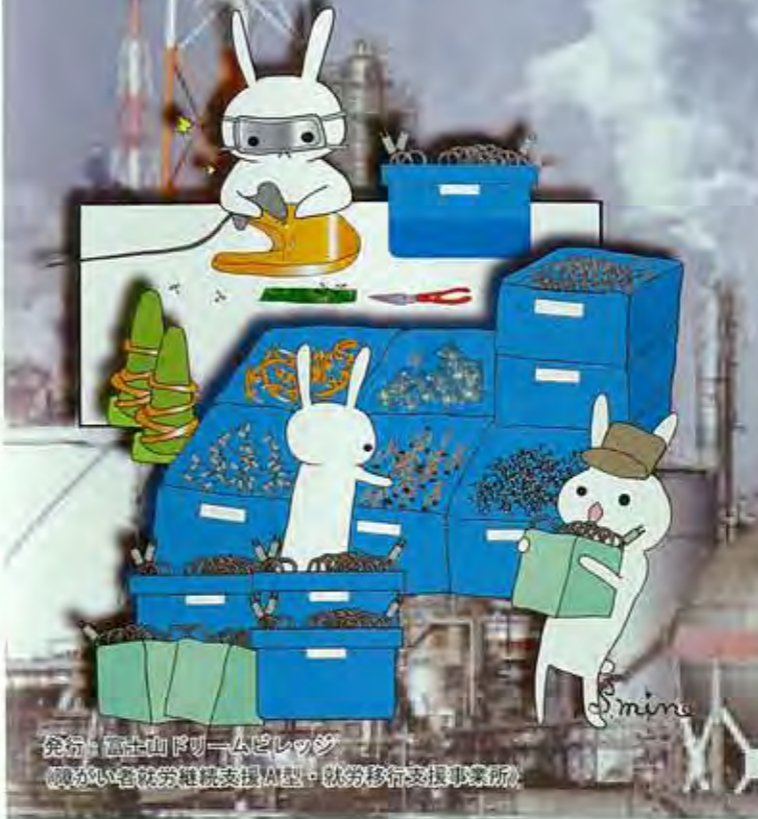


★印が粟倉南事務所です。粟倉団地交差点を左折。約100m。ポテト、HACから50mほど。スーパー「まんぞくや」さん跡地。登山道から来ると平成大楼をこえて150mほど。

障害者の就労を応援します

ビレッジ通信

vol.18



川勝平太知事との懇親会において

先日ある会社の社長から、「川勝知事と食事会を行うから参加しませんか」というお誘いを頂戴し参加させていただきました。会場に着くと、県内企業家の方々100名ほど参加しておられ、久しぶりにお会いする東部地区の社長や、日頃お世話になっている経営者の方々が多く列席しておられました。

知事のお話は、情熱的で分りやすく、お言葉の節々に強さと優しさを感じ、心の底から知事の偉大さを感じました。なかでも、「富士の国 静岡」として中国浙江省外交を積極的に行なっておられ、中国高官から国賓級のおもてなしを受けられたことや、西湖と富士山の間を比較しながら、中国と「富士の国 静岡」の外交・交流の重要性のお話に感銘を受けました。

雨ニモマケズ

5月23日、季節はずれの冷たい雨の降る中、つまずき目的グラウンドで「第8回静岡チャレンジサッカーフェスティバル」が開催されました。富士山ドリームビレッジは昨年に引き続きチーム



として参加してきました。あいにくの雨の中でしたが、15名の選手たちはハツラツとプレイ！計4試合の熱戦を繰り広げ、12チーム2位という好成績を収めました。選手たちは「もっと走れた！球際でもっと頑張りたかった！」「優勝はできなかったけど、2位のメダルをもらえたことは嬉しい」と興奮気味に感想を聞かせてくれました。

今回のサッカー大会を通して大きな収穫がありました。それは利用者間の会話が増えたことです。チーム一丸となりプレイしたこと、同じ時間と思い共有したことにより、普段は接する機会が少なかった仲間とも仲間意識が強く芽生え、会話が増えています。それは、作業訓練を通してでは身に付きづらい、内面・人間性



向上に繋がっていると考えます。作業能力が高いだけではなく、人間的魅力溢れる人を社会に送り出していきたい。そんなことを考えていると、スポーツの素晴らしさと余暇の時間の重要性を感じました。しかし翌日、選手たちは皆揃って「足が痛い」「腰が痛い」と悲痛な叫びを…。余暇活動の充実とともに、適度な運動、基礎体力の維持・向上の必要性を痛感です。冷たい雨の降る中、応援に駆けつけて頂いた多くのご家族の皆様にとっても感謝しております(*^^)v

☆サッカー交流受付中☆

～共にサッカーを通じた交流をしませんか？～
練習試合・合同練習など大歓迎です！担当：馬飼野、山下



試合内容は以下の通りです。

	試 合	得点者
第1試合	富士山ドリームビレッジ 1-1 スポーツを楽しむ会	T・Sくん1
第2試合	富士山ドリームビレッジ 3-0 浜北特別支援学校	S・Sくん2 T・Sくん1
第3試合		
準決勝	富士山ドリームビレッジ 2-0 静岡大附属特別支援学校	H・Yさん2
第4試合		
決 勝	富士山ドリームビレッジ 0-3 FCフジ化学	



社会貢献プロジェクトにご協力を

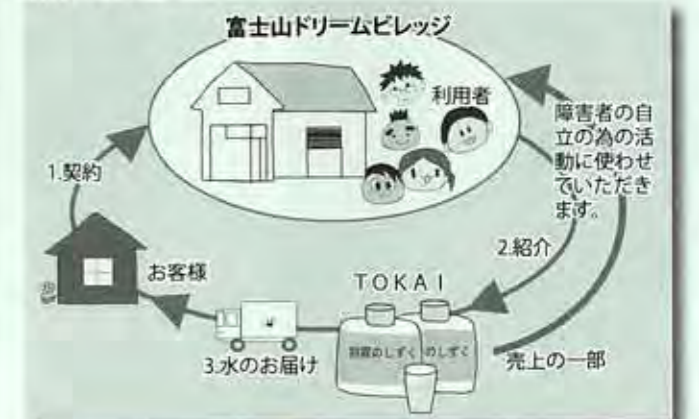
ご協力いただいています！～その2～

野中運輸さま

富士宮市にある運送会社さんです。障害者の自立にたいへんご理解をいただき、「紹介の輪」を様々な面で広げていただいています。

- このプロジェクトは株式会社 TOKAI さまと共同で行っているものです。
- 富士山ドリームビレッジからの紹介で TOKAI さまのおいしい水の宅配便をご契約いただくと、売上げを障害者の自立のための活動に使われるという仕組みです。

紹介のシステム



問い合わせ：富士山ドリームビレッジ
TEL / 0544-25-1808 担当：就労移行課長 薬科 由美

軽作業所より愛を込めて

今年も、又、梅雨を経て夏を迎える時期が近づいてきました。暑くなり、窓を開け放つ様になると、気になってしまうのが、網戸の痛みですね。

近年は、網戸の張替えも業者に頼むのではなく、家庭で行う事が多くなって来ている様です。私たち軽作業班では、皆様に道具や資材を提供しているジャンボエンチョー様から、網戸を張り替える時に使用する網押さえゴムの袋詰め込み作業も請け負っているのです。この製品は数多く頂いているものの中でも、基本的な作業が集約された製品です。

工場から箱詰めされたゴム巻きの原材料を、お客様の扱いやすい長さにする為に、専用の器具を使用して、7Mサイズ・20Mサイズに合わせて、巻き取り数をカウンターで確認しながら巻き取り、確かな長さの管理を、重量を測ることで確認して、袋詰めに廻します。

ここまでの、第一段階です。巻き取り回数のチェックや巻き取った製品の重量のチェック、巻き取りの乱れの確認など色々な工程・チェックが必要なのです。

次に、お客様が手にする形の、袋詰め作業に入りますが、ここからも、基本作業の連続です。商品サイズに合った専用のビニール袋と、商品表記の台紙をそろえ、それらを組み合わせて袋に収め、ビニール袋の口をセロハンテープで止め、仕上がり状態を確認した上で、バーコード付・検品シールを貼り付けます。

これらの作業は、決して一個人の力だけでは出来ません。複数の巻き取り作業、数名での袋詰め作業が力を合わせて仕上げています。

この製品を、店頭でいつか手にするかと思います。その時、この製品の裏での、私たちの努力を感じて頂けたらうれしいです。これからも、皆様の為に、頑張っていきます。

就労支援課主任 馬飼野 史亮



①原材料



②規定の長さに巻く



③巻いたもの



④袋詰め



⑤検品とシール貼り



⑥原料を巻いたものと、検品済みの出荷商品

園芸療法の考え方を取り入れた訓練～農園芸班～

前号の掲載記事にもありましたが、ビレッジでは請負で地域農家さんへ「援農」に行っています。職業訓練として、仕事として農園芸を行っているわけですが、そのベースにあるのは「園芸療法」です。

私たち事業所では、農園芸班のほか、軽作業班、リサイクル班、食品加工班（お弁当調理等）があり、利用者の方の自立に向けて支援計画を立てながら職業訓練を行っています。各作業班で相互交流を図りながら、園芸療法が必要な方には農園芸班に参加していただき、よりよい方向へ向かっていけるように支援しています。園芸療法と農園芸班については、今後のニューズレターでも、事例等を随時紹介していきたいと考えています。

「園芸療法とは？」

障がいのある方、何か問題を抱えている方が、生活の質の向上、問題解決等を目標に、園芸療法士が目標に沿った園芸プログラムを立てながら、リハビリテーションを行う療法です。

就労支援課長 田代 幸代



新しい試み～「モチベーション」と「集中力」～



1 解体物



2 使用道具



3 解体途中



10 申告表



9 仕分け検品練習



8 仕分けパーツ



7 解体物仕分け



4 解体作業中



5 解体パーツ1



6 解体パーツ2

建築廃材や工場、家庭から出る希少金属やプラスチック廃材を選別し、リサイクル資源として再生している企業より新しい仕事のお話を頂き、たぐいま試行中です。この仕事は「施設外就労」を前提に頂いたお話です。「施設外就労」とは、利用者が企業に赴き、請負業務として契約し、工賃を得ながら技術を身につけ、就労につなげる実習です。

現在その目標にむけ、富士山ドリームビレッジ事業所内で電動ドライバーやペンチなどを使用し、パチンコ台の装飾部分をすべて分解し仕分けする練習を、約10名の利用者が携わって行っています。

最初は電動ドライバーなど使ったことがなく、慣れないためにネジ山を半分つぶすこともありましたが、今では全員が電動ドライバーを使用し、丁寧かつ正確に分解できるようになっています。

パチンコ台は多くのパーツの組み合わせでできており、集中や記憶が必要であり難しい作業です。全員時間はかかりましたが確実に覚え判断できるようになってきました。また、集中力と忍耐力、体力を必要とする地道な作業ですが、道具を使いこなす面白さを覚え、積極性と意欲が強く見られるようになりました。

ほかの作業では長続きしなかった利用者が、この作業を始めて見違えるほどの作業能力を発揮された方がいました。集中して作業に取り組むようになってきている姿を見て、本人にとって興味がある作業はモチベーションが上がり、技術の向上につながると私たち支援側も再認識しました。

作業所で行なっている練習から企業の工場内で行なう施設外支援に移り、さらに能力を上げていく利用者の方が何人も出てくる事を目標にし、個々の能力と作業意識の向上を目指し、利用者への支援を工夫して行っていきたいと思います。

就労移行課主任 長倉 年明